愛知東邦大学　シラバス

開講年度(Year)	2025年度	開講期(Semester)	前期
授業科目名(Course name)	教育社会学		
担当者(Instructors)	武 寛子	配当年次(Dividend year)	3
単位数(Credits)	2	必修・選択(Required / selection)	選択

■授業の目的と概要(Course purpose/outline)

現代の学校教育について、社会学的な視点から理解し、現代における教育に関わる課題について考察できるようになることをめざす。
社会における教育の役割について理解するとともに、社会的な状況の変化がいかに学校教育に影響を与え、どのような課題が生じるのか、どのような社会的な政策が講じられてきたのかを批判的に考察する。

■授業形態・授業の方法(Class form)

授業形態(Class form)	講義
授業の方法(Class method)	本授業は講義形式で行う。授業内容に関する課題を毎回の授業の中盤と後半で提示し、課題に取り組むことで学生との双方向的な学習を図る。

■各回のテーマとその内容(Each theme and its contents)

回数(Num)	テーマ(Theme)	内容(Contents)	メディア区分(Media)
第1回	教育社会学について考える	教育の社会的機能を考察し、教育社会学を学ぶことの意義を探る。	□
第2回	社会における教育の役割	義務教育の平等が意味することを、「平等」の根本的意味から捉えなおし、現実の義務教育の課題を紐解く。	□
第3回	学校について考える（１）：学級運営	社会の中で教育がどのように行われてきたのか、その関係性が時代に応じてどのように変容してきたかを考える。	□
第4回	学校について考える（２）：教育内容と教育方法の変遷	教育内容や方法がどのように決められていくのか、社会的諸力との関係から考察する。	□
第5回	学校について考える（３）：教師の社会的存在	教師の行為や経験を、「社会の中の教師」という視点から考える。	□
第6回	教育選抜とメリトクラシー	階層社会という現実から、教育の機能を批判的に考察する。学歴社会という現実の在り方が及ぼす生徒への実質的な影響を考える。	□
第7回	教育と格差（１）：出身家庭と教育達成	子どもや保護者の言動の背後に家庭の経済格差がいかなる影響を与えているのか解き明かす。	□
第8回	教育と格差（２）：文化資本と社会関係資本	教育格差を文化資本と社会関係資本の側面から考える。	□
第9回	教育と格差（３）：貧困	先進国の不平等と途上国の不平等について、貧困の側面から考える。	□
第10回	家族と教育（１）：家庭教育	教育の場としての家庭において、家庭教育がいかに行われてきたのかを考察する。	□
第11回	家族と教育（２）：社会階層と子育てスタイル	社会階層と子育てスタイルについて、階層間格差の側面から整理する。	□
第12回	ジェンダーについて考える	ジェンダーの観点から、学校教育の実践を批判的に考察する。	□
第13回	マイノリティの子どもの排除と包摂について考える	マイノリティの視点から、教育と社会について問い直す。	□
第14回	地域の多文化化から移民の子どもの教育について考える	多文化化する日本と移民の子どもの状況について考え、移民の子どもの多様な学び場について考察する。	□
第15回	教育問題を克服する安全な学校の経営	安全な学校を構築するために、どのような教育的支援、社会的支援があるのかを考察する。	□

■授業時間外学習（予習・復習）の内容(Preparation/review details)

毎回の授業時に提示する課題について、授業中に取り組み、授業終了時に提出する。その課題解答に関連した事後学習を行う（2時間程度）。
事前学習として、次回のテーマに関するテキストの該当頁を予告し、事前に目を通す（2時間程度）。

■課題とフィードバックの方法(Assignments/feedback)

毎回の授業でリアクション・ペーパーの記入を通じて、学生の理解度を把握する。リアクション・ペーパーの内容を、次回の授業においてフィードバックを行う。

■授業の到達目標と評価基準(Course goals)

区分(Division)	DP区分(DP division)	内容(DP contents)
知識・技能	◆ 2019子ども発達DP1	現代の学校教育について、社会学的な視点から理解し、現代における教育に関わる課題について考察できるようになることをめざす。
思考力・判断力・表現力	◇ 2019子ども発達DP2	社会における教育の役割について理解するとともに、社会的な状況の変化がいかに学校教育に影響を与え、どのような課題が生じるのか、どのような社会的な政策が講じられてきたのかを批判的に考察する。

■成績評価(Evaluation method)

筆記試験(Written exam)	実技試験(Practical exam)	レポート試験(Report exam)	授業内試験 (in-class exam)	その他(Other)
			60%	40%

授業内試験等(具体的内容)(Specific contents)

毎回の課題小レポートと（40%）と授業内での筆記試験（60%）で総合的に評価する。

■テキスト(Textbooks)

No.(No.)	テキスト名など(Text name)	ISBN(ISBN)
1	松岡亮二編著2021『教育論の新常識：格差・学力・政策・未来』中央公論新社	9784623092604
2		
3		
4		
5		

■参考図書(references books)

No.(No.)	テキスト名など(Text name)	ISBN(ISBN)
1	酒井朗・中村高康・多賀太編2012『よくわかる教育社会学』ミネルヴァ書房	
2	近藤博之・岩井八郎2015『教育の社会学』放送大学教育振興会	
3		
4		
5		